かがやく―石川・富山県産業界

成長への投資加速

古くから密接な関係にある石川県と富山県の産業界。両産業界は能登半島震災からの復興のけん引役を担うべく新たな挑戦を続けている。長年培ってきた独自の技術やノウハウを生かし、特徴ある技術や製品の開発を推進。事業拡大に向けた成長投資にも意欲的だ。地域経済の底上げにまい進する両産業界の動きを追った。

YKK APは2026年10月に中国・江蘇省南通市でアルミニウム形材の新工場を稼働する

YKKとYKK AP は2028年度に、YKKグループの連結売上高を24年度見込み比23・8％増の1兆2426億円、連結営業利益を同88・0％増の1179億円にする中期経営計画を発表した。ファスニング事業では市場環境の変化に対応するため、合理化・サステナビリティー・デジタル分野などに計2470億円を投資する。建材のAP事業では収益構造の変革を掲げ、日本はリフォーム・改装分野、海外は中国の新工場建設や北米の増産対応などに計1363億円を投資する。

服飾業界は消費者の小ロット・短サイクル化が進むと想定。デジタル技術で顧客と生産現場をつなぎ「使い手と作り手の双方が〝わくわく〟する商品開発を強化する」（大谷裕明YKK社長）。AP事業では28年度の海外売上高を24年度比約1・5倍の1597億円と計画。「中国と台湾で高級市場のターゲットに加え中級を開拓する」（魚津彰YKK AP社長）方針だ。

三協立山はタイにアルミニウム形材の押し出し工場を新設する。事業用地は取得済みで所在地や投資額、稼働時期は非公表。国際事業でタイを中心に設備投資を進め、自動車向けなどの生産を増やす。同社は25年5月期の設備投資計画を見直し、成長投資を期初計画の65億円から86億円に増額。27年5月期までの中期経営計画の一環で、タイ事業での成長投資を前倒しする。

中国に軸足を置くメーカーが「リスク分散で東南アジア諸国連合（ASEAN）に生産拠点を分散する」（平能正三社長）と見る。タイが選択肢の一つになると想定し需要を取り込む。

同国では政府の優遇政策でEVが急速に普及している。三協立山はこの動きを追い風にタイでアルミ形材の生産能力引き上げを決定。「ASEANトップクラスの技術力と品質」（平能社長）で大型案件の獲得につなげる。

一時的な減速感はあるものの脱炭素社会の実現に向けて、EV市場は拡大が見込める。軽量かつリサイクルに適したアルミ部品は、EVをはじめとする電動車との親和性も高く、EV向けを軸とした高収益体質の確立を急ぐ。

北陸電力、北陸電力送配電（富山市）と福井大学は、さまざまな地域課題解決に取り組むことを目的に、包括連携協定を結んだ。脱炭素技術の社会実装推進やエネルギーの安定供給など、地域の持続発展につなげる。

脱炭素や省エネ技術に関する共同研究をはじめ、人材交流や設備の相互利用などで連携。上田孝典福井大学長は「両社の知見を融合し、脱炭素社会の実現をさらに加速する」と強調。松田光司北陸電力社長は「これまでの活動をさらに拡大し、多様な地域の課題解決に挑戦するための体制が強化された」と期待を込める。

包括連携協定を結んだ（左から）北陸電力送配電の棚田一也社長、福井大学の上田学長、北陸電力の松田社長

独自戦略で活路

中小企業も事業領域に動いている。コンチネンタル（富山市）は、M&A（合併・買収）をテコに事業領域の拡大に乗り出す。足元で後継者が不在の中小企業2社を買収。配電盤・電力制御装置の組み立て加工に参入するほか、機械商社を傘下に置くことで主力の板金加工の新規顧客を開拓する。M&Aで技術やノウハウが途絶えることを防ぐとともに、自社事業の裾野を拡大する。

24年11月に配電盤・電力制御装置の組み立て加工を手がけるサンネンタル（同市）を、1月に工作機械・切削工具を扱う機械商社、萬全工販（同）を相次いで買収した。買収額は非公表。両社とも法人格は残し、コンチネンタル社長の岡田俊哉氏が社長を兼務する。また、同社から社員2人ずつを出向させ、買収後の統合効果を最大化する。

コンチネンタルは板金加工を主力とし、これまでは主に機械装置の外装部品を手がけてきた。配電盤など電気機器のノウハウ・技術を持つサン電装と組むことで、受注の幅を電気分野にまで拡大。案件ごとの受注規模を増やしていく。機械商社の萬全工販の顧客基盤を活用し、取引先の裾野も広げる。

コンチネンタルはM&Aを駆使し主力の板金加工事業の拡大を図る

小松電気化学工業（石川県小松市）は1953年に創業した。硬質クロム、亜鉛、ニッケルなどの電気メッキからパーカー処理といった多種多様な表面処理を手がけている。建設機械や産業機械向け大型部品のメッキを得意とし、多品種少量品のほか、量産品にも対応できる。

同社の強みは短納期で、土曜日でも注文を受け付ける。短納期を実現するため、従業員の多能工化を進めている。取得した技能に応じて従業員には手当を支給する。西章洋社長は「企業規模の拡大と従業員満足度の向上を両立させたい」と意気込んでいる。

小松電気化学工業では多種多様な電気メッキに対応できる

DAISE（金沢市）は板金溶接加工、産業機械の設計、製作、検査までを一貫して自社対応できる。他社が断った技術的に難しい手間がかかる加工も積極的に受け入れている。長年の技術力や総合力が認められ、金沢市の伝統産業である金箔（きんぱく）の半自動型裁断機を開発。業界関係者から高評価を得た。

最近は受発注や生産管理などを行う基幹システムの更新に着手。クラウドサービス「kintone（キントーン）」のノーコードツールを使い、ITベンダーと共同でシステムを開発した。使い勝手がよく、業務効率化につなげている。

宝機械工業（石川県白山市）はキー溝加工機やキー溝盤などの自社製品を手がける。プレス機の周辺装置や各種産業機械の材料調達から部品加工、表面処理、塗装、組み立てまでの一貫した受注生産にも力を入れている。

同社は1963年に金沢市で創業。71年に石川県松任市（現白山市）に工場移転し、97年から自社製品以外の加工や組み立てに着手。2002年から白山市旭工業団地で操業する。24年12月から25年3月に創立60周年記念事業を実施し、新たな旅立ちを祝った。越柴充彦社長は「今後は創業100周年を目指して精進したい」と語った。

石川県鉄工機電協会

MEX金沢5月15日から3日間
来場者4万人を見込む

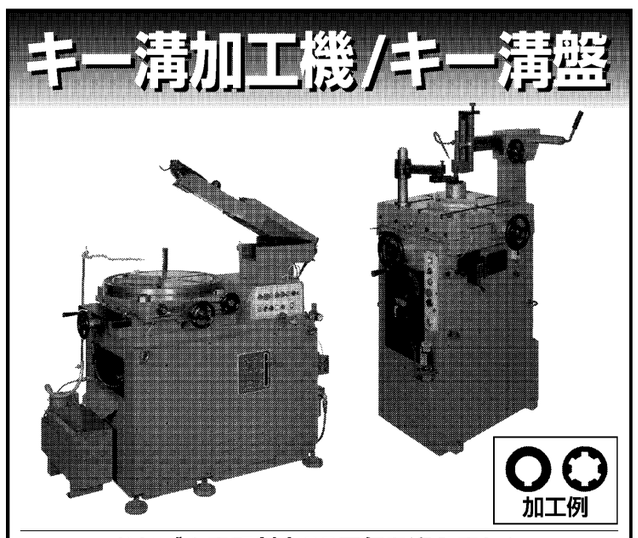
多くの来場者でにぎわった前回のMEX金沢2024

石川県では毎年5月、日本海側最大規模の機械工業見本市「MEX金沢」を開催している。今回のMEX金沢2025（第61回機械工業見本市金沢）は同月15―17日に石川県産業展示館（金沢市）1、3、4号館で開く。主催は石川県鉄工機電協会（同、中村健一会長＝中村留精密工業会長）。事前来場登録制で入場無料。

今回のテーマは「技術が切り拓く、未来の鼓動」。展示スペースを拡大し、面積は約1万6000平方㍍。約850小間に工作機械や産業用ロボット、自動化・省力化機器など製造業の競争力向上に役立つ製品の展示や技術を数多く紹介する。3日間の来場者数は4万人を見込む。

期間中には各種イベントも開く。同15日は前石川県副知事で経済産業省大臣官房政策統括審議官の西垣淳子氏が「製造業のデジタル化の進展～生成AIのインパクト～」と題して講演する。このほかにも各種セミナー、ワークショップ、学生向けの特別企画も行われる。

技術が切り拓く、未来の鼓動
5.15(木)▶5.17(土) 10:00–17:00 最終日は16:00まで
石川県産業展示館1・3・4号館
同時開催：ビジネス創造フェアいしかわ2025
主催／一般社団法人石川県鉄工機電協会



おかげさまで創立60周年を迎えました
宝機械工業株式会社
〒924-0004 石川県白山市旭丘3-20 TEL(076)275-5155 FAX(076)275-5156
https://takarakikai.co.jp

これから ここから ココロから 45 thank you for ANNIVERSARY
おかげさまで45周年
challenge and effort
SHINKO
代表取締役 中川 真太郎
富山県富山市馬瀬口16番地
tel.076-483-3324
https://www.shinkogp.co.jp

サステナビリティビジョン2050
Life with Green Technology
～「環境技術でひらく、持続可能で豊かな暮らし」を実現する企業グループへ～
三協立山株式会社
https://www.st-grp.co.jp/

YKK®
Little Parts. Big Difference.

金属加工のベストパートナー
めっきの力で地域のものづくりに貢献します。
■硬質クロムめっき ■亜鉛めっき ■ニッケルめっき ■ニッケルクロムめっき ■無電解ニッケルめっき
■アルマイト処理 ■リン酸亜鉛皮膜処理 ■リン酸マンガン皮膜処理 ■黒染め処理 ■ステンレス不働態化処理

めっきに情熱を　未来に輝きを
KDK 小松電気化学工業株式会社
〒923-0995 石川県小松市安宅新町ナ109
TEL 0761-21-1231 FAX 0761-21-1233
Email smile@k-dk.co.jp https://k-dk.co.jp/